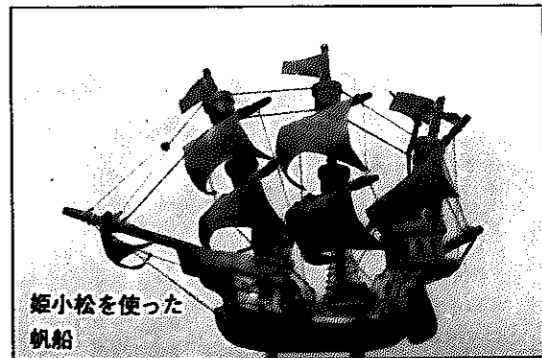


帆船作りに魅せられて

林 栄助さん (四の町・商店主)

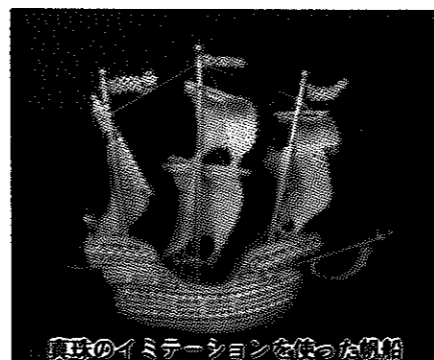


林さんとモデルシップとの出会いは今から三十二、三年前のこと。

「戦争から帰った家にモデルシップが沢山あってね。話を聞くと、理研電線の大河内青鱗という人が、町の仏壇屋に大量に作らせたということなんで、それを見れば見まねで一隻作っては改良をくり返しているうちに、いつしか本気になってしまった」と、林さん。

白根の物産として広く紹介され、三十年代後半から四十年代にかけて注文が殺到。ついには、住宅の二階を仕事場に改装し、外国への輸出も始めるほど、熱中したそうです。

林さんのモデルシップの特徴はすべて手作り。船体には狂いがでないよう、仏壇の木地に使う姫小松を、また、年代に応じた型



真珠のイミテーションを使った帆船

と、それに合わせた素朴で、しかも、重厚な色彩で仕上げているところにあります。
型は、帆船の専門誌や歴史書から、色彩は、仏壇の塗りからヒントを得たそうで、このほかにも、いろいろな部分に林さんのアイデアが生かされています。
かたわらのツヤ夫人は、「手先の仕事はあまり得意じゃないんですが、こんなに一生懸命になるなんて、考えてもみなかった」と、物事をなし遂げることと探求し、勉強し続けるご主人像を語ってくれました。

一時期には、本格的にこの仕事でと、考えたこともあるという林さんですが、今は趣味として気ままに作り「人様に喜んでもらえればそれでいい」と、製作中のジャンボ・シップの完成を、楽しみにしているということです。



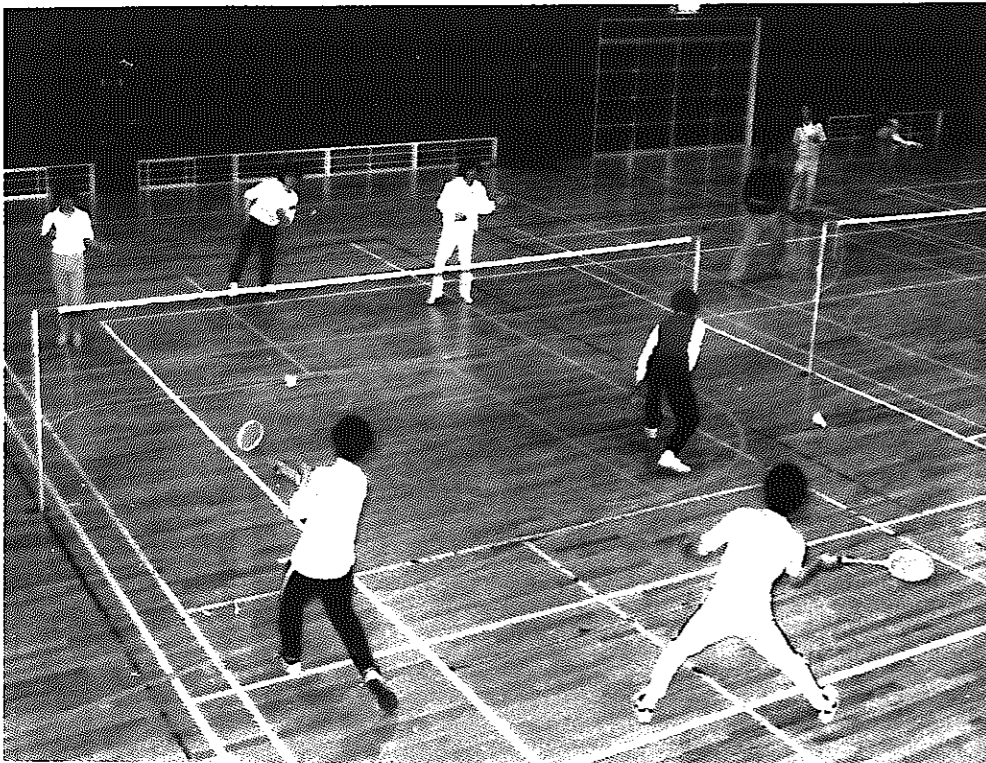
シャトルに青春をのせて

庄瀬バドミントンクラブ



今も忘れられません」と会員は話してくれました。

星 五 男さん
(農業・次郎石工門興野)
昨年の八月に入会しました。みんな汗を流してやっています。みが最高ですね。毎日が充実しています。週一回の練習日があるのが待ち遠しいくらいです。
バドミントンのほかに、花見とか潮干狩りなどを行い、会員の親睦を深めています。



市民大会Aクラスで、全員1回戦突破をと、練習が続けられる

小さなシャトルを追いかけ、激しく動きまわっている庄瀬バドミントンクラブのみなさん。「友だちづくりと体力づくりをかねて、バドミントンを楽しもう」と二年前、庄瀬中学校時代の同窓生が集まって結成されたグループです。
現在、会員は二十人。練習は毎週木曜日、午後七時三十分から九時三十分まで庄瀬中学校体育館で行っています。練習日の体育館は若さと熱気にあふれています。
バドミントンという、アー羽根つきかと思う人が多いようですが見るとやるとは大違い。かなり体力を必要とするスポーツです。「相手の強烈なスマッシュを打ち返せるようになったときの感激は、

今も忘れられません」と会員は話してくれました。
メンバーのほとんどが初心者だったことから、市バドミントン連盟の会員から教えてもらったり、練習試合を重ねてきました。最近、その成果があらわれ、各種大会に出場してもかなりの成績を残せるようになってきました。当面の目標は、市民バドミントン大会Aクラスの部で「全員が一回戦を突破すること」だそうです。
子供からお年寄りまで楽しめるのも、バドミントンの魅力とか。今、会員を募集中、特に女性会員は大歓迎のことです。連絡先は、武藤貞一さん(鋸物師興野・☎一四〇一・夜間)へ。